



れも満員でした。車窓から町並みを眺めていると、参加者から「ひとつの町に3蔵が今も醸造を続けているのはすばらしい。来年もぜひ参加したいですね」と声をかけられました。

各蔵元には趣向をこらした出店など、それぞれのおもてなしがあり、当日は六千人を超える来客があったとの報告を受け、細川紙のユネスコ登録との相乗効果を大いに感じた一日でした。

好天に恵まれた3月の第3土曜日、町内外の多くの方々とふれあうことができました。その一つが「万葉ウォーク」の歴史散策です。おがわ仙覚万葉まつりの一環で行われ、参加者は歩かなければ見落とす路地のたたずまいや、仙覚律师、半僧坊と羅漢様などの歴史に触れたり、小川町和紙体験学習センターでは紙の板干しを見たりして、とても満足そうでした。

二つ目は「ちよこたび埼玉in小川町」の酒蔵めぐりです。小川町駅を拠点に、町内にある三つの酒蔵と埼玉伝統工芸会館を巡りました。用意された四台のシャトルバスはいはず